

<p>ひとことアピール</p> <p>伝統技術を生かしたハンディクラフト生産で収入向上をめざしているティボリ民族の女性たちが、老眼鏡と製品カタログ作成のためのデジカメを必要としています。いずれも中古で結構です。ご協力よろしくお願いたします。</p>	 <p>2010年10月30日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://homepage3.nifty.com/hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
---	--	--

**遠いミンダナオ先住民族の自立を支えるわけ
— 「ほっておいてはだめなの？」という質問に応える —**

ハンディクラフトの販売を通じて現地の状況をお知らせする秋のイベントシーズンも終盤です。入場者 10 万人という最大イベント、日比谷公園でのグローバルフェスタも秋晴れの下、10 月 2-3 日に無事終了しました。私たちの「焼き畑でなく持続可能な森林農業推進」のパネルに目を留めた女性から「彼らはそのままが幸せではないの？」という質問を受けました。「地球規模の環境破壊には先進国の我々こそ生活を見直すべきで、自然と共存する山岳部先住民族の焼き畑はそのままがいい、支援はお節介」とのご意見に対して、現地の状況を説明することでご理解いただけ、奨学金支援のお申し出にまで話がつながりました。

今年のグローバルフェスタのテーマは、『MDGs、それは私たちの約束』でした。国連が 10 年前に定めた貧困削減や環境の持続可能性確保など 8 つの目標 MDGs の中間報告の機会でもありました。程度の差こそあれ今や「貧困」は日本の課題でもあります。遠いミンダナオの先住民族に関わっている場合ではないと思われる方も多いと思います。身近なケースと異なり、ミンダナオ先住民族のために時間、労力、資金を提供するには、その前に歴史、経済、政治的背景を理解するというひと手間が必要です。

私は自分の理解を次にお伝えすることにしていきます。

すべての人は人として幸せに生きる権利があるのに、個人や国家の愚かさやエゴイズム、また、交通・通信の発達もたらした経済のグローバル化により、幸せの分配以上に貧富の格差や幸せの偏りが進んでいる現実があること。ミンダナオの先住民族の場合は、木材や天然資源の大資本による開発の中で本来の生活基盤を奪われたこと。それには、アジアで唯一の先進国だった日本が深くかかわってきた経緯があること。

人間社会で弱肉強食はあってはならないし、ましてや、人の手によってつくられた苦境であるなら、そこからの脱出に手を貸すのは当然ではないだろうか。

長引く不況や高齢化の進行でともに現地の先住民族を支えてくれた仲間が減っています。必ずしも豊かではない私たちだからこそ、憐みではなく、生きる手立てを得るための支えを求める先住民族とともに働くことができます。時間と労力と資金を少しずつ出し合う活動を今少し続けられたらと思っています。

当団体は合意された活動のビジョンを定めていません。「先住民族はほっておいていいのでは？」という問いに対する答えを会員の皆様からも伺い、団体としてのビジョンにまとめられたらと思います。
(代表 山崎)

